

第1回福山市地域コミュニティ推進懇談会 次第

日時 2021年（令和3年）1月25日（月）
19:00～21:00

会場 福山市役所本庁舎3階大会議室

1 福山市地域コミュニティ推進懇談会の設置について（19:00～19:25）

- ・ 自己紹介
- ・ 市長挨拶，座長互選
- ・ 設置目的，開催計画，懇談項目の確認

2 地域コミュニティの現状と課題を振り返る

- ・ 協働のまちづくりについて（小葉竹委員）（19:25～19:35）
- ・ 福山市地域コミュニティのあり方検討委員会の検討結果を共有（渡邊委員）
（「人口減少時代の地域コミュニティのあり方報告書」）（19:35～19:50）

3 地域コミュニティに係る委員の事業活動を共有（各委員）（19:50～20:45）

- ・ 民主団体の取組
- ・ NPO，経済団体の取組
- ・ 行政の取組

講評，まとめ（櫻井アドバイザー，座長）（20:45～20:58）

○事務連絡（20:58～21:00）

【配布資料】

- | | |
|-------|-----------------------------|
| 資料1-1 | 福山市地域コミュニティ推進懇談会設置要綱・委員名簿 |
| 資料1-2 | 福山市地域コミュニティ推進懇談会開催日程 |
| 資料2-1 | 本市における協働のまちづくりの取組 |
| 資料2-2 | 人口減少時代の地域コミュニティのあり方報告書（概要版） |
| 資料3 | 各民主団体の目的，事業，課題 |
| 資料4 | 平岡委員提出資料 |

第1回福山市地域コミュニティ推進懇談会 出席者名簿

(委員)

井上 誠	地域づくり塾修了者（御幸学区）
小川 智弘	福山商工会議所専務理事
小葉竹 靖	福山市市民局長
橋本 哲之	福山市社会福祉協議会会長
平岡 顕治	中間支援組織（NPO 法人ひとまちスタジオ理事長）
廣田 要	福山明るいまちづくり協議会会長
藤井 眞弓	福山市女性連絡協議会事務局長
古谷 輝昭	福山市老人クラブ連合会副会長
真室 明美	福山市福祉を高める会連合会副会長
三保 麻美子	福山市PTA連合会書記
村田 政雄	福山市公衆衛生推進協議会副会長兼事務局長
吉田 美砂	福山市子ども会育成協議会事務局長
寄高 英樹	地域づくり塾修了者（光学区）
渡邊 一成	福山市立大学都市経営学部教授

(五十音順)

(委員代理)

横山 典好	福山市自治会連合会副会長
-------	--------------

(アドバイザー)

櫻井 常矢	福山市持続可能な地域コミュニティ形成に関する 政策アドバイザー（高崎経済大学地域政策学部教授）
-------	--

(福山市)

枝廣 直幹	福山市長
-------	------

(事務局)

安原 洋子	福山市市民局まちづくり推進部参与
甚田 温子	福山市市民局まちづくり推進部まちづくり総務課長
檜山 正弘	福山市市民局まちづくり推進部まちづくり総務課次長（調整担当）
丑田 光毅	福山市市民局まちづくり推進部まちづくり総務課主事

福山市地域コミュニティ推進懇談会設置要綱

(目的)

第1条 福山市地域コミュニティのあり方検討委員会の報告を踏まえた各民主団体の取組を検証するとともに、多様な主体と連携、協働して地域コミュニティの再構築に向けた取組を推進するため、福山市地域コミュニティ推進懇談会（以下「懇談会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 懇談会は、次の各号に掲げる事項を取り扱う。

- (1) 地域コミュニティの再構築に関すること。
- (2) 各民主団体の事業及び組織の課題解決に向けた取組の検証に関すること。
- (3) 地域づくりに係る行政と地域の役割分担に関すること。
- (4) その他目的達成に必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 懇談会は、別表1に掲げる関係団体等の委員で組織する。

(座長)

第4条 懇談会に座長を置く。

- 2 座長は、委員の互選により定める。
- 3 座長は、懇談会を進行する。

(会議)

第5条 懇談会の会議は、市長が招集する。

- 2 市長は、必要に応じて別表2に掲げるアドバイザーの出席を求め、その意見を聴くことができる。
- 3 前条に掲げるもののほか、市長は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 懇談会の庶務は、福山市市民局まちづくり推進部まちづくり総務課が行う。

(委任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この要綱は、2020年（令和2年）11月12日から施行する。

附 則

この要綱は、2021年（令和3年）1月25日から施行する。

別表 1 (第 3 条関係)

団体名等
中間支援組織
福山明るいまちづくり協議会
福山市公衆衛生推進協議会
福山市子ども会育成協議会
福山市自治会連合会
福山市市民局長
福山市社会福祉協議会
福山商工会議所
福山市女性連絡協議会
福山市 PTA 連合会
福山市福祉を高める会連合会
福山市立大学
福山市老人クラブ連合会
ふくやま地域づくり塾修了者

別表 2 (第 5 条第 2 項関係)

櫻井 常矢 (福山市持続可能な地域コミュニティ形成に関する政策アドバイザー)
--

福山市地域コミュニティ推進懇談会 委員名簿

井上 誠	地域づくり塾修了者（御幸学区）
小川 智弘	福山商工会議所専務理事
小葉竹 靖	福山市市民局長
佐藤 賢一	福山市自治会連合会会長
橋本 哲之	福山市社会福祉協議会会長
平岡 顕治	中間支援組織（NPO 法人ひとまちスタジオ理事長）
廣田 要	福山明るいまちづくり協議会会長
藤井 眞弓	福山市女性連絡協議会事務局長
古谷 輝昭	福山市老人クラブ連合会副会長
真室 明美	福山市福祉を高める会連合会副会長
三保 麻美子	福山市PTA連合会書記
村田 政雄	福山市公衆衛生推進協議会副会長兼事務局長
吉田 美砂	福山市子ども会育成協議会事務局長
寄高 英樹	地域づくり塾修了者（光学区）
渡邊 一成	福山市立大学都市経営学部教授

（五十音順）

○福山市地域コミュニティ推進懇談会 開催日程

	第1回	第2回
日時	2021年(令和3年) 1月25日(月)19:00~21:00	2021年(令和3年) 3月15日(月)19:00~21:00
会場	福山市役所本庁舎 3階 大会議室	福山市役所本庁舎 3階 中会議室
懇談項目 (案)	<p>○福山市地域コミュニティ推進懇談会の設置について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置目的, 開催計画, 懇談項目の確認 <p>○地域コミュニティの現状と課題を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協働のまちづくりについて ・福山市地域コミュニティのあり方検討委員会の検討結果を共有(「人口減少時代の地域コミュニティのあり方報告書」) <p>○地域コミュニティに係る委員の事業活動を共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民主団体の取組 ・NPO, 経済団体の取組 ・行政の取組 	<p>○意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動の担い手不足への対応 ・コロナ禍における地域のコミュニケーション ・各民主団体の取組の統合等による地域活動の負担軽減 等

- ・2000年代に入り、地域社会を取り巻く環境は、少子高齢化や高度情報化、国際化の進展、そして環境問題といった地域社会に密接にかかわる課題などにより、大きく揺れ動く社会・経済情勢の潮流の中でめまぐるしく変化
- ・本市においても、こうした変化の中で、市民ニーズの多様化・高度化が進み、さまざまな分野での課題に直面

(「福山市協働のまちづくり指針」より抜粋)

↓
多くの課題の解決に向け、市民と行政が協働し、市民が主体となったまちづくりを進めていくため、「協働のまちづくり」の取組が始まる。

2005年(平成17年)7月 「福山市協働のまちづくり指針」策定

市民と行政がそれぞれの責任と役割を分担し、対等な立場で補完し、協力し合う「自助・共助・公助」のまちづくりを推進
[推進方針]

- 1 お互いの情報を共有します [情報の共有]
- 2 人材づくりを通じた意識づくりや啓発を行います [人材づくり, 意識啓発]
- 3 みんなが活動しやすい参加しやすいシステムづくりを行います [活動しやすい環境づくり]
- 4 協働に関する事業の評価・公開を行います [事業の評価・情報公開]

2006年度(平成18年度)～2011年度(平成23年度) 「福山市協働のまちづくり行動計画」に基づく取組開始

市民と行政が協働し、市民による自主的・主体的なまちづくり活動の推進をスタート

[推進方法]

- まちづくり推進委員会による各地域(概ね小学校区を基本とする)での地域まちづくり推進事業の実施
…地域課題の解決・活性化・コミュニティの育成をめざす
- 市民提案型事業に対する補助などボランティア・NPO等の市民活動を支援



2012年度(平成24年度)～2016年度(平成28年度)
「第二次福山市協働のまちづくり行動計画」に基づく取組開始

市制施行100周年の2016年度(平成28年度)に、市民一人ひとりが「まちづくりの主演」として、協力し合い、いきいきと活躍できるまちとなることをめざす

[重点項目]

地域のめざすべき目標、解決すべき課題を住民みんなで共有

→各学区(町)まちづくり推進委員会で「地域まちづくり計画」を策定

まちづくりに対し、「想い(志)」のある市民の活動の場を創る

→各学区(町)において「まちづくり志縁チーム」設立

地域を中心とした「まちづくり」のネットワークを創る

→まちづくりサポートセンターを中心とした連携・支援



2016年度(平成28年度)～2018年度(平成30年度)
「市長と車座トーク」を全市で開催

人口減少・少子高齢化等の社会構造や価値観の変化により、地域コミュニティ維持への危機感を訴える声が多く寄せられた。



2018年度(平成30年度)

「持続可能な地域コミュニティのあり方に関する有識者会議」開催

地域コミュニティが持続可能であるための方策を見出すため開催、次の提案が示される。

[提案内容]

- 1 多様な主体が力を発揮できる地域づくりの検討
(みんなで取り組む地域づくりへの転換)
- 2 複雑化した地域自治組織のスリム化, 各種団体役員のあり方や効率的な組織運営の検討
(地域組織・協議体の再構築, 会議や情報伝達方法の研究)
- 3 行政から地域への依頼事項の抜本的な見直し
(地域への負担の軽減)
- 4 行政による地域支援体制の再構築・強化
(庁内連携, 職員の意識改革・地域コミュニティ支援方法の確立)

2019年度(令和元年度)～

「持続可能な地域コミュニティ形成に向けた取組」をスタート

- 「持続可能な地域コミュニティ形成モデル事業」…地域でのコミュニティ再構築に向けた取組の支援(曙・新市)
- 「地域コミュニティのあり方検討委員会」
…持続可能な地域コミュニティのあり方について協議・検討し, 方向性を市へ報告
- 「地域づくりに関わる人材の育成」…地域づくりに意欲をもって, 関わる人を増やす(地域づくり講演会, 地域づくり塾)
- 「地域コミュニティ再構築検討会議(庁内会議)」
…地域と行政の役割分担の整理, 地域の負担軽減策の検討・実践, 財政支援策・支援体制の検討



新しい生活様式を踏まえた「みんなで取り組む地域づくり」へ

○多様な主体が力を発揮できる地域づくり

役員中心の地域づくり ⇒ ・新たな担い手の発掘・育成
・みんなで取り組む地域づくりへの転換

○複雑化した地域自治組織のスリム化, 各種団体役員のあり方や効率的な組織運営の検討

役員の多忙化, 複雑化した地域自治組織 ⇒ ・事業活動, 類似組織のスリム化
・役員を選出の見直し
・デジタル化の推進

○行政から地域への依頼事項の抜本的な見直し

行政からの膨大な依頼事項による地域負担の増大
⇒ ・依頼事項の抜本的な見直しによる地域負担の軽減

○行政による地域支援体制の再構築・強化

縦割りの地域支援, 地域に寄り添う姿勢が希薄
⇒ ・地域活動を支える支援制度と体制の確立

人口減少時代の地域コミュニティのあり方 報告書

～持続可能な地域共生社会に向けて～

2020年（令和2年）1月

福山市地域コミュニティのあり方検討委員会



はじめに…

福山市では、2006年度（平成18年度）から、地域と行政が「協働のまちづくり」の理念のもと、補完・協力し合いながら地域課題の解決に取り組み、自助・共助・公助による住みよいまちづくりを進めています。

私たち福山市地域コミュニティのあり方検討委員会では、人生100年時代を迎えるなかで、人口減少が進むこれからの地域社会にあっても、地域で支え合いながら暮らせる地域コミュニティの形を描くため、「地域の負担軽減」「地域支援制度」「地域組織体制」などをテーマに、自らの組織を振り返り、話し合いを重ね、地域と行政の具体的な役割分担や、地域コミュニティのあるべき姿について、検討を行ってきました。

併せて、市内2地域で取り組まれている「福山市持続可能な地域コミュニティ形成モデル事業」や行政内の検討状況の報告を受けながら、地域運営組織の連携イメージをまとめました。

地域コミュニティは同じ地域に生活する住民同士がつながりあい、暮らしを支え合う組織や営みです。それぞれの地域コミュニティや行政・専門機関が連携・協働し、複雑・多様化する地域課題の解決に取り組むため、「役員主体の地域づくり」から「地域住民をはじめ多様な主体の参画による『みんなで共に創るまちづくり』」へ転換することにより、人口減少社会にあっても、安心して暮らせる持続可能な地域共生社会をめざしていきましょう。

2020年（令和2年）1月20日
福山市地域コミュニティのあり方検討委員会



地域と行政の役割・取組

論点 1 多様な主体が力を発揮できる地域づくりの検討（みんなで取り組む地域づくりへの転換）

<p><課題> 役員中心の地域づくり ↓ <めざす姿> ・新たな担い手の発掘・育成 ・みんなで取り組む地域づくりへの転換</p>	<p>【開かれた組織への再構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員と住民が本音で話し合える場づくり ・地域づくりの目的を地域全体で共有できる場の開催 ・役員以外の住民や外部人材が参加できる環境づくり <p>【担い手の発掘・育成，多様な主体の参画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員による活動のバックアップ及び次世代リーダーの育成 ・自主的に活動したい人の受け皿を検討 ・新たな担い手の募集・発掘の仕組みを構築（モデル事業で実証中） 	<div style="border: 1px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; color: red; font-weight: bold;">地域の取組</div>
--	---	--

論点 2 複雑化した地域自治組織のスリム化，各種団体役員のあり方や効率的な組織運営の検討（地域組織・協議体の再構築，会議や情報伝達方法の研究）

<p><課題> ・役員の多忙化 ・複雑化した地域自治組織 ↓ <めざす姿> ・事業活動，類似組織のスリム化 ・役員の選出の見直し ・ICT化の推進</p>	<p>【組織の再構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までの事業活動を振り返り，目的を確認 ・少子化や人口減少に合わせ，組織を再編（近隣との統合など） ・充て職を減らし，役員の負担を軽減 ・役員以外も含めた地域全体から役員を選出するシステムの検討 ・少子化や人口減少を見据え事業を見直し（類似事業の統合） <p>【会議・情報伝達方法の研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効率的な会議の開催（伝達だけの会議をやめるなど，内容や会議出席者を検討し，開催回数や開催時間を工夫） ・ICTを活用した情報伝達方法の検討 	<div style="border: 1px solid red; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; color: red; font-weight: bold;">地域の取組</div>
---	---	--

論点 3 行政から地域への依頼事項の抜本的な見直し（地域への負担の軽減）

<p><課題> 行政からの膨大な依頼事項による地域負担の増大 ↓ <めざす姿> 依頼事項の抜本的な見直しによる地域負担の軽減</p>	<p>【情報発信方法の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回覧の見直し，削減 ・紙媒体（チラシ）の削減の検討 ・ICTを活用した情報共有の仕組みを検討 <p>【出席依頼の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・類似の会議やイベントの統合，事業の見直し ・動員を減らす ・会議・イベントを全庁で共有できるシステムの構築 <p>【委員推薦依頼の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・依頼内容の見直し 	<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; color: blue; font-weight: bold;">行政の取組</div>
--	---	--

論点 4 行政による地域支援体制の再構築・強化（庁内連携，職員の意識改革・地域コミュニティ支援方法の確立）

<p><課題> ・縦割りの地域支援 ・地域に寄り添う姿勢が希薄 ↓ <めざす姿> 地域活動を支える支援制度と体制の確立</p>	<p>【地域活動の支援体制の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活動を支える拠点づくり ・関係機関へつなぐ相談窓口機能の整備 ・職員の意識改革 <p>【地域活動の支援制度の構築】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題に応じた財政支援への再構築 ・各種助成・支援制度の申請などの書類（書式）の見直し（簡素化） 	<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; display: inline-block; color: blue; font-weight: bold;">行政の取組</div>
---	--	--



議論を踏まえた人口減少時代の地域づくり

■これまでの地域づくりの課題

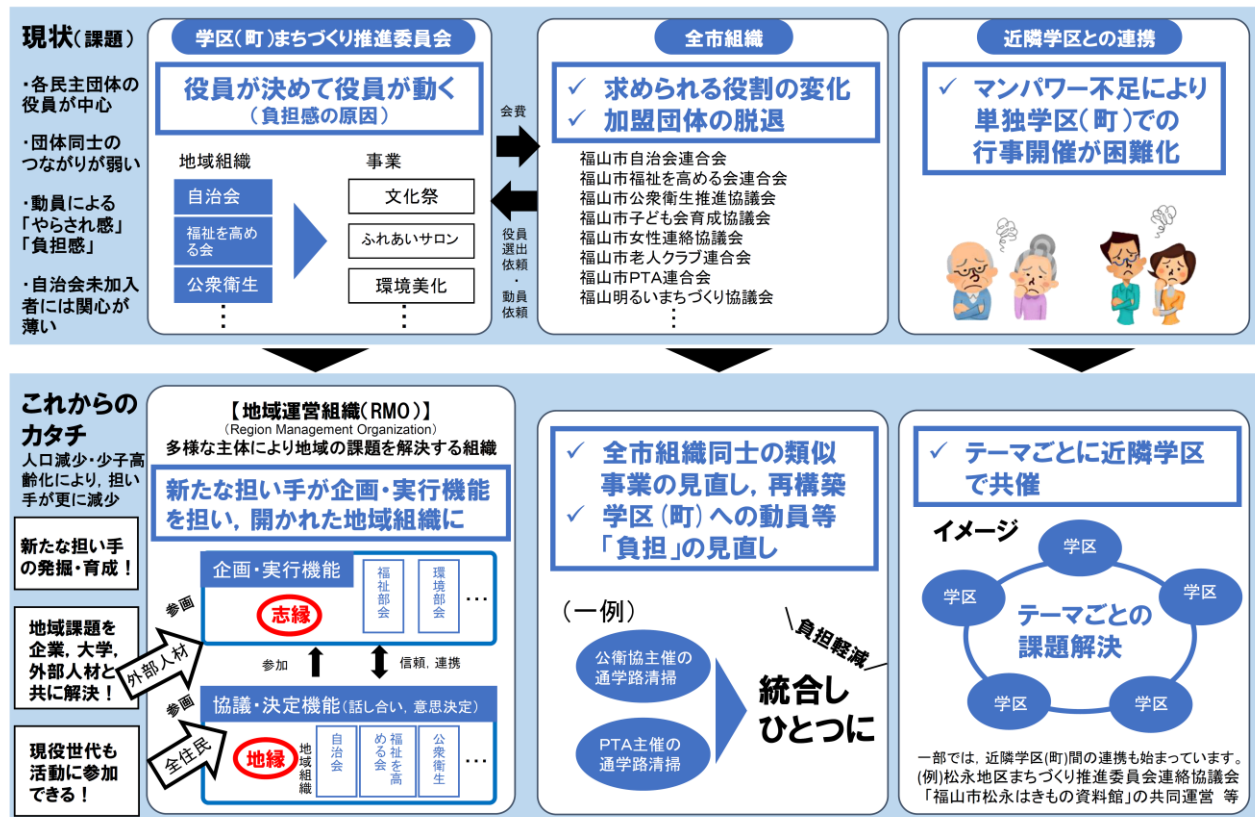
本市の地域づくりは、自治会連合会など地域で活動する各民主団体の役員を中心に行われていますが、人口減少・少子高齢化の進行に伴う、担い手不足などにより、役員の負担感が増しており、役員が企画・立案し、決定承認し、更には実施まで担う現行体制には限界が生じています。

■議論を踏まえた今後の地域づくり

現状を打開するためには、新たな担い手の発掘・育成による「みんなで取り組む地域づくり」への転換が必要であり、次のとおり取り組むべきものと考えます。

- ・開かれた地域運営組織に（幅広い住民による座談会を通じた担い手の発掘，外部人材の参画等）
- ・近隣学区（町）との広域連携（テーマごとにつながり合い，地域課題を解決）
- ・全市組織の活動の見直し（類似事業の統合，動員などの負担軽減）
- ・地域を支える横断的な行政支援（縦割りではなく横断的な連携により地域を支える仕組みを構築）

議論を踏まえた地域コミュニティのあり方 ～現状とこれからのカタチ～



これらの取組を相互に連携しながら進めていくことで、地域課題を着実に解決に導き、特定の人だけに負担が偏ることなく、人口減少時代においても、安心して暮らせる持続可能な地域共生社会が実現するものと考えます。



全市組織の活動の見直しに向けて

福山市地域コミュニティのあり方検討委員会で検討された、今後の各民主団体の課題及び取組の考え方は次のとおりです。

■各民主団体の課題・取組

団体名	課題・今後の取組の考え方
福山市自治会連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・加入率の低下が課題であり、自治会・町内会への加入促進の取組により組織強化を継続する。向こう三軒両隣が、顔が見える状況にあることが必要である。 ・地域における防災・減災の取組は今後ますます重要となる。災害時に自助・共助の活動が行えるよう、行政などと協働で行うことが必要である。 ・回覧・配布物について精査・スリム化し、単位自治会長・班長などへの負担を軽減することが必要である。
福山市公衆衛生推進協議会	<p>学区の委員会が無くなる地域もあり、それをどうやって再構築するかが大きな課題である。全市組織と学区が情報を共有し、自分たちができる公衆衛生活動を考え、地域の衛生意識、環境意識をどのように育てるかが課題である。</p>
福山明るいまちづくり協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・各学区（町）選出の中央委員のあり方を検討したい。 ・財源は会費と補助金であり、多くの活動は行政の施策と一致している。民主団体ではあるが、活動は事務局（市職員）が支えている状況であり、課題と考えている。 ・今後の活動のあり方を会員や各委員会委員と検討したい。
福山市子ども会育成協議会	<p>会員数の減少と指導者の高齢化が課題である。地域の協力を得て、地域ぐるみで子どもを育てる気運を高める中で、保護者の負担を減らし、会員増につなげていくかを考える。</p>
福山市女性連絡協議会	<p>会員数の減少と男女共同参画の更なる推進が課題である。取組目標を明確にし、それに賛同・共感してくれる団体を見つけ、対話し交流するなど活動を広めていく取組が重要だと考えている。受身から能動の姿勢で課題に取り組めるような成長をめざすために、情報収集力や課題の明確化など、一人ひとりが育成されることが重要である。</p>

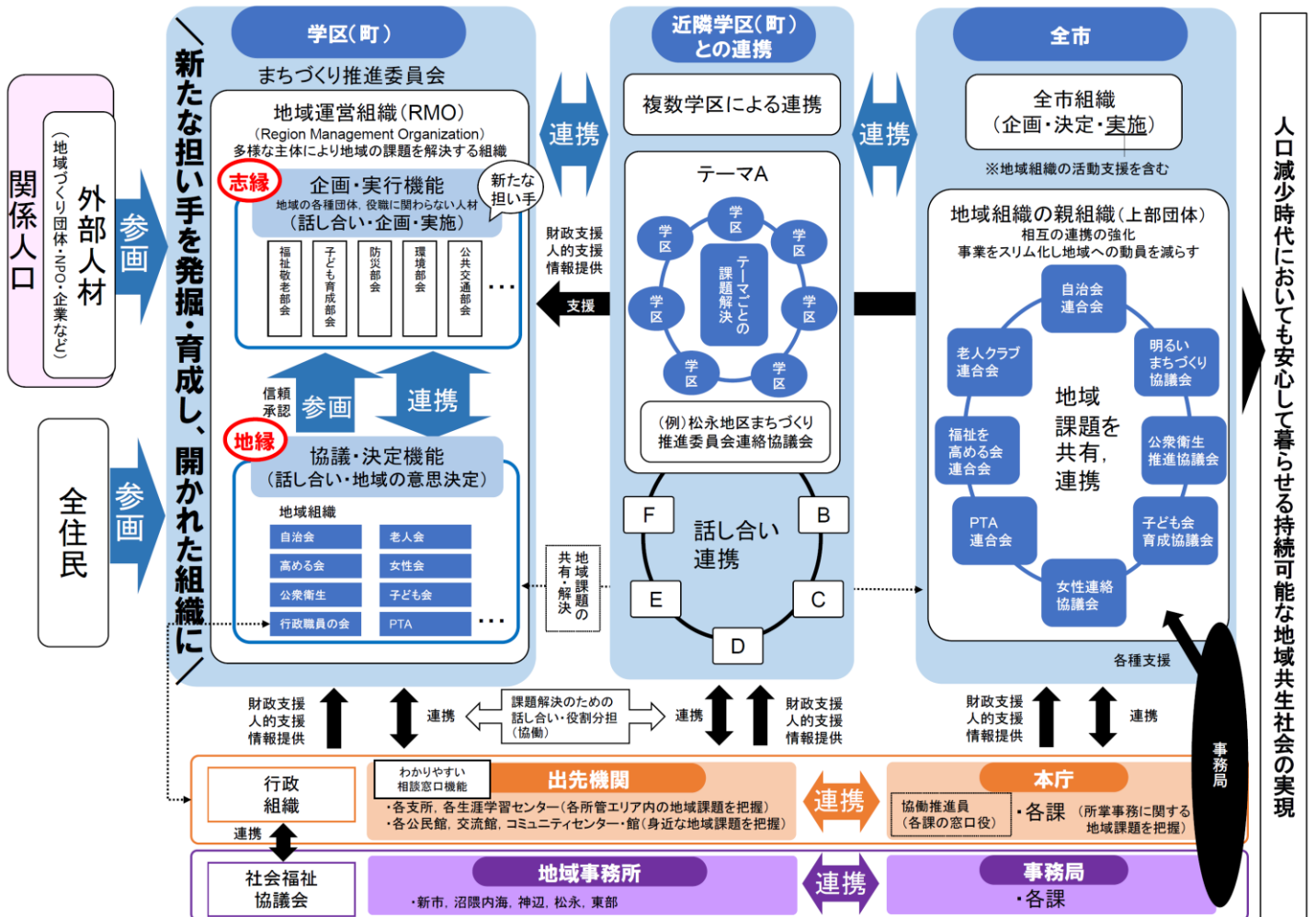
団体名	課題・今後の取組の考え方
福山市老人クラブ連合会	<p>会員の高齢化が進んでおり、体力低下や疾病、孤独、孤立が多く見られる。健康寿命を延ばすために、できるだけ楽しい集いや話し合いの場を多くもち、人と人との助け合い、支え合う活動をめざし、フレイル(*1)の予防に努めたい。</p>
福山市福祉を高める会連合会	<p>これからの高齢化社会に「福祉」は欠かせない。50～60歳代の方々に、活動に関心を持っていただいて協力体制をとりたい。次の世代にうまくバトンタッチしたい。</p> <p>また支える側、支えられる側が共に対等であること、支える側も活動を通じて、活力が得られることが理想だと思う。</p>
福山市PTA連合会	<p>少子化が進んでいくなか地域とのつながりが薄れていく可能性があるため、まずは地域とのつながりを絶やさない努力が必要だと思う。</p> <p>今後は、現状を踏まえた活動に見直し、縮小し、役員だけが大変な思いをするのではなく、責任を分担・軽減して多くの人に関われる団体をめざす。</p>
福山市社会福祉協議会	<p>地域づくりというのは地域課題の解決、地域の暮らしを支えるということであり、まさに「地域福祉」である。地域の課題は他人事ではなく、自分のこととして解決していく。また、そういう仕組みを作っていく。様々なことを包括的に受ける相談支援体制を作る。行政・社会福祉協議会、幅広い団体の協働の中で地域共生社会の実現に取り組み、その中核を社会福祉協議会が担っていく。</p>
地域づくり塾修了者 (まちづくり推進委員会、 学区自治会連合会、単位 自治会・町内会などの 地域活動の実践者)	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの後継者（40歳代50歳代の世代）に引き継ぐ体制づくりが大事。 ・地域活動に新しい人を入れる努力や、違うグループの意見、新しい発想を取り入れること（頭ごなしに否定しない）など意識をもって行う。 ・情報共有はメールで行うなど、会議の数を減らし、行事を統合する。各種団体の年間行事を共有しながら進める。

*1「フレイル」…加齢とともに心身の活力が低下し、要介護状態の危険性が高まった状態。
早期の予防の取組を行うことで、元気な状態を取り戻せると言われている。



4 人口減少時代の地域コミュニティのかたち～みんなで共に創るまちへ～

人口減少が進むこれからの地域社会においては、多様な主体により地域の課題を解決する学区（町）まちづくり推進委員会が、複数学区と連携し、テーマごとの課題解決に取り組んだり、全市組織や行政、社会福祉協議会とお互いに情報を共有・連携し、みんなでまちづくりを行う必要があります。



地域づくりは特定の役員のみにより行われるものではありません。誰もが参加できる開かれた話し合いの場で、地域の課題を話し合い、解決に向けて連携・協働することが必要です。

全ての組織同士が連携することで、人生100年時代のなか、少子高齢化、人口減少の進む地域コミュニティにおいても、地域みんなで暮らしを支えあうまちづくりを行い、地域共生社会を実現していきます。



行政施策の展開イメージ

人口減少時代においても安心して暮らせる持続可能な地域共生社会の実現

めざす姿

「みんなで共に創るまちへの転換により、役員の負担が軽減されている。

「新たな人材」の発掘・育成が進み、持続可能な地域運営組織へ転換されている。

市民ニーズを踏まえた行政支援策が構築され、地域をサポートする体制が整っている。

2023年度

2021年度～

2020年度

2019年度

多様な主体により、検証⇒見直し⇒施策推進⇒進捗管理を繰り返す

コミュニティ再構築の動きが
全市的な拡がりへ

- 地域コミュニティのあり方検討委員会 (市民)
 - 持続可能な地域コミュニティのあり方について協議・検討し、方向性を市へ報告 (2020年1月20日)
 - 各団体が見直しに向けた検討を開始
- 人口減少時代の地域コミュニティを考えるシンポジウム (仮称)
 - モデル事業、検討委員会の取組を共有 (2020年3月15日)

- 地域コミュニティ推進に係る懇談会 (多様な主体) (継続)
 - 民主団体や地域コミュニティの事業・組織の見直し (取組を共有し、再構築に向けて協議する場を開催)
 - 行政と地域の役割分担を検討
 - 地域への支援制度の具体協議
- 指針等、必要な「ガイドライン」策定
- 地域・事業者・行政等多様な主体による取組の共有・検討
- コミュニティ政策の推進及び進捗管理

- 持続可能な地域コミュニティ形成モデル事業
 - 地域でのコミュニティ再構築に向けた取組の支援
 - ※実証モデルは上記シンポジウムで共有
- 地域づくりに関わる人材の育成
 - 地域づくりに意欲をもって、関わる人を増やす「地域づくり講演会」「地域づくり塾」

- コミュニティ再構築の動きを他学区へ拡充
 - 「地域づくり座談会」
 - コミュニティ再構築に取り組む地域の話し合いをサポート (継続)
 - 全市へ共有する報告会を開催
 - 「地域づくり塾」 (継続)

- 地域コミュニティ再構築検討会議 (庁内会議)
 - 地域コミュニティのあり方検討委員会の議論内容、担当者・課長級会議の検討状況を踏まえ
 - ↓
 - ・地域と行政の役割分担の整理
 - ・地域の負担軽減策の検討、実践
 - ・財政支援策、支援体制の検討
- 地域づくりに関わる職員を育成
 - モデル事業等により、地域をサポートする人材を育成
 - 地域づくりを支える公民館・交流館・コミュニティセンター・館の支援

- 地域への支援制度を再構築 (継続)
 - 地域への負担軽減策を実施
 - 地域と行政の役割分担に基づく財政支援策及び支援体制の再構築
 - 地域の実情に応じた財政支援
 - 地域に寄り添う支援体制
 - ・話し合い支援
 - ・地域調査支援
 - ・プロジェクトの企画立案への助言
 - ・情報発信支援 など
- 地域コミュニティを支えるための研修 (継続)

みんなで方向づける

人材発掘・育成

地域に寄り添う体制づくり

地域コミュニティの持続性を高めるために ～誰もが本音で話し合える場の重要性～

地域の役員だけでなく、幅広い住民や外部人材も含めた多様な人々が、地域の課題を本音で話し合う開かれた場をつくることが重要です。新しい意見・発想を尊重し、年齢に関係なく誰でも地域課題について発言し、話し合いができる環境をつくります。

【話し合いの進め方】

1 事業などの棚卸し

地域ではこういった事業・活動を実施しているのかを共有します。みんなで気になることについて自由に話し合います。それぞれの事業・活動について、発想や今までの取組方法、関わり方を変えることで、他の事業との統合や他団体と連携して実施することが効果的な場合があります。

始めに話し合いのルールを決めておくと話しやすい環境が
つくれます。

例えば、

- 今日は「決めない」話し合いです。自由に発言を！
- 限られた時間なので進行に協力してください。
(1人が長い時間話さないように気をつけましょう)
- 周囲の意見にしっかりうなずきましょう！

みんなで
本音の
話し合い

2 事業等の目的を確認（徹底的な振り返り）

「今まで実施していた事業は何のために行うのか」「今の社会にあった取組なのか」をみんなで検証・振り返りを行います。長年実施する中で、社会背景も変化しているため当初の目的と現在の事業内容にズレが生じたり、ニーズが変わっている可能性があります。

3 みんなが納得

地域の課題解決につながる取組を、みんなで話し合いながらとりまとめ、優先順位をつけて年間事業計画を作成します。みんなが納得して一緒に活動できる地域になります。

4 みんなで楽しみながら地域活動を持続可能に

多様な主体が参画し、みんなが話し合っただけで企画・実施する開かれた組織となり、楽しみながら活動することで、コミュニティ活動が持続可能になります。

複数学区が同じ課題を共有し、
連携できる場ができました！

各種団体の年間行事を事前に
すりあわせてブッキングなし！

誰でも話し合える場

どういった事業があるのか（事業などの棚卸し）

何のために行うのか（事業などの目的を確認）

みんなが納得
(優先順位をつけ、話し合いながら事業計画等を作成)

みんなが楽しめる持続可能な地域活動へ

同じ月に実施していた学区の
フェスタと総合防災訓練
を一緒に開催しました！

事業を整理・統合

2つの会合に同じ人が
出席していたため、時間
をずらして、同じ日に開
催することにしました。

○各民主団体の目的、事業、課題

2021年(令和3年)1月25日 福山市まちづくり総務課

団体名	福山市自治会連合会	福山市公衆衛生推進協議会	福山明るいまちづくり協議会	福山市子ども会育成協議会	福山市女性連絡協議会	福山市老人クラブ連合会	福山市福祉を高める会連合会	福山市PTA連合会	福山市社会福祉協議会
1.関係課	協働のまちづくり課	協働のまちづくり課	協働のまちづくり課	青少年・女性活躍推進課	青少年・女性活躍推進課	高齢者支援課	福祉総務課	(教委)学事課	福祉総務課
2.目的	学区連合会相互の連絡、環境の整備、良好な地域社会の維持及び形成に資する地域的な共同活動を行うことを目的とする。	公衆衛生推進運動を展開している福山市内の各小学校区を単位又は小学校区内の地区を単位とする公衆衛生推進委員会又は地区衛生組織が、相互に密接な連絡提携を図ると共に、地域社会の公衆衛生の向上のための意識の高揚と実践活動の促進に資することを目的とする。	市民憲章の主旨に則り、公徳心豊かな市民意識の高揚を図り、潤いのある明るく住みよいまちづくりを積極的に推進することを目的とする。	子ども会育成指導について協議し、発展強化のために必要な共同事業を企画するとともに、子ども会相互の連絡調整と交換を図ることを目的とする。	女性の教養及び地位の向上、青少年の健全育成、人権尊重、家庭並びに社会における民主的生活の実践、地域社会の福祉増進、国際化と世界平和の確立等につとめ、男女共同参画による活力と個性豊かな地域社会の建設を目的とする。	老人福祉法の趣旨に則り、市内の老人クラブ相互の密接な連絡を保ち、広く老人福祉の向上並びに明るい社会の建設に寄与することを目的とする。	福山市内の学区の福祉を高める会相互の連絡を図ると共に、高める会の活動の活性化に努め、地域の福祉向上に寄与することを目的とする。	各単位PTA相互の連絡及び提携並びに会員の教養向上を図ることにより、児童及び生徒の健全な成長に資することを目的とする。	福山市における社会福祉事業その他の社会福祉を目的とする事業の健全な発達及び社会福祉に関する活動の活性化により、地域福祉の推進を図ることを目的とする。
3.所掌事項	(1) 各学区内の自治会又は町内会の運営について、研究及び協議に関すること (2) 民意の市政への反映に関すること (3) 市政への要望と協力に関すること (4) 学区連合会相互の連絡事務と協力に関すること (5) 地域の生活環境の改善及び向上に関すること (6) 学区連合会相互の親睦、研修及び教養の向上に関すること (7) 学区連合会会員の福利厚生に関すること (8) その他この会の目的達成に必要な事業に関すること	(1) 公衆衛生活動の普及、啓発及び推進に関すること (2) 学(地)区委員会等相互の連絡と調整に関すること (3) 公衆衛生の向上に関する調査研究に関すること (4) 関係行政機関ならびに関係団体との連携調整に関すること (5) その他公衆衛生の向上に必要な事業	(1) 明るいまちづくり運動の普及、啓発及び推進に関すること (2) 明るいまちづくり運動推進者の実践活動の促進に関すること (3) 関係機関及び明るいまちづくり運動推進者相互の連絡と調整に関すること (4) 調査研究に関すること (5) その他目的達成に必要な事項	(1) 子ども会の育成指導と連絡調整 (2) 指導者の育成及び技術研修 (3) 各種合同事業の企画及び運営 (4) 子ども会組織並びに、子ども会安全会の拡充強化 (5) 子ども会運営資料等発行、配布 (6) 関係機関、団体との連絡調整 (7) その他必要と認める事業	(1) 市内の各学区女性会の連携及びその他女性団体との連絡調整に関すること (2) 市民生活の向上をめぐらし、家庭生活の合理化を促進すること (3) 女性の教養及び地位向上に関すること (4) 女性及び子どもの福祉、環境に関すること (5) その他必要と認められること	(1) 広島県老人クラブ連合会との連絡提携 (2) 市内各老人クラブとの連絡調整 (3) 老人クラブの育成と指導 (4) 老人クラブに関する調査研究 (5) 老人クラブ指導者の養成並びに研修 (6) 関係機関、団体との連絡調整 (7) 福祉大会の開催 (8) ブロック別事業 (9) その他目的達成に必要な事項	(1) 高める会相互の連絡調整及び交流 (2) 高める会運営についての研究、協議 (3) その他目的達成のために必要な活動	(1) 各単位PTA間の連絡及び提携を図る (2) 家庭、学校及び社会における児童生徒の福利を増進する。 (3) 社会教育の振興を助け、健全な環境の整備充実を努める。 (4) 学校に対する公費を適正に確保することに協力する。 (5) その他、教育一般の向上進展に協力する。	(1) 社会福祉を目的とする事業の企画及び実施 (2) 社会福祉に関する活動への住民の参加のための援助 (3) 社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成 (4) (1)～(3)のほか、社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業 (5) 保健医療、教育その他の社会福祉と関連する事業との連絡 (6) 共同募金事業への協力 (7) 老人居宅介護等事業の経営 (8) 障がい福祉サービス事業の経営 (9) 移動支援事業の経営 (10) 相談支援事業の経営 (11) 介護予防・日常生活支援総合事業 (12) 福祉サービス利用援助事業 (13) 神辺老人福祉センターの経営 (14) 生活福祉資金貸付事業 (15) 生活支援体制整備事業 (16) その他この法人の目的達成のために必要な事業

団体名	福山市自治会連合会	福山市公衆衛生推進協議会	福山明るいまちづくり協議会	福山市子ども会育成協議会	福山市女性連絡協議会	福山市老人クラブ連合会	福山市福祉を高める会連合会	福山市PTA連合会	福山市社会福祉協議会
4.事業内容	<p>(1) 市政懇談会の開催(第1回)市重点政策説明(第2回)学区要望事項に関する懇談</p> <p>(2) 人権問題研修会</p> <p>(3) ごみ袋の斡旋</p> <p>(4) 理事会(行政施策に関する研修等)</p> <p>(5) 運営研究大会</p> <p>(6) 自治会(町内会)加入促進の取組</p> <p>(7) 各種審議会等への参画</p> <p>(8) 全国自治会連合会・広島県自治会連合会活動への参画</p> <p>(9) その他</p> <p>会報「市自治連」発行(年2回)</p> <p>ホームページ開設</p> <p>他都市との交流</p>	<p>(1) 環境健康募金(旧健康感謝募金)事業</p> <p>(2) 総会</p> <p>(3) 「1万人の食・エコチェック」事業</p> <p>(4) 「環境と健康のポスター・標語コンクール」事業</p> <p>(5) 環境保健夏季大学(環境協事業)</p> <p>(6) 広島県公衆衛生大会(環境協事業)</p> <p>(7) 福山公衆衛生大会</p> <p>(8) その他</p> <p>脱温暖化出前講座、「ふくやま公衛協だより」発行、ふくやまマラソン会場美化活動等の実践・啓発活動、がん検診街頭啓発</p>	<p>(1) 市民憲章の普及と啓発</p> <p>(2) 明るいまちづくり推進大会の開催</p> <p>(3) 機関紙「まちづくり」・「明るいまちづくりニュース」の発行</p> <p>(4) 全市一斉清掃「芦田川を守る日」(6月)</p> <p>「環境にやさしい都市づくり」(10月)</p> <p>(5) 市の花「ばら」の普及促進</p> <p>花壇コンクール、ばら育成・管理講習会(接ぎ木・剪定・芽接ぎ)、ばら普及推進員制度、ばら相談コーナー、ばら花壇オーナー制度</p> <p>(6) 健康づくり、体力づくり運動(健康ウォーキング大会)</p> <p>(7) 生活学校運動の推進</p> <p>(8) 交通安全運動、防犯活動の推進</p> <p>(9) その他</p> <p>中央委員研修会、人権問題研修会、会員拡大の取組、市民憲章運動推進全国大会への参加</p>	<p>(1) ルール講習会(ソフトボール、フットベースボール)</p> <p>(2) 福山市少年少女親善球技大会</p> <p>(3) 中国新聞社旗少年少女親善球技大会</p> <p>(4) ママさんフットベースボール大会</p> <p>(5) 福山市子ども文化祭</p> <p>(6) 学区行事奨励金</p> <p>(7) 指導者研修会</p> <p>(8) ジュニアリーダー研修会</p>	<p>(1) 青少年声掛け運動</p> <p>(2) 子ども体験「綿菓子作り」(ばら祭協賛)</p> <p>(3) 市民舞踊講習会共催</p> <p>(4) 地産地消料理講習会</p> <p>(5) 親睦グラウンドゴルフ大会</p> <p>(6) 防災シンポジウム</p> <p>(7) 交通安全教室、学習会</p>	<p>(1) 全国夏の交通安全運動</p> <p>(2) 中国・四国ブロック老人クラブリーダー研修会</p> <p>(3) 市老連GG大会</p> <p>(4) 県老人クラブ大会</p> <p>(5) 市老人福祉大会・芸能祭</p> <p>(6) 老人作品展</p> <p>(7) 市老連囲碁将棋大会</p> <p>(8) ブロックカラオケ大会</p> <p>(9) 県老人クラブゲートボール大会</p> <p>(10) シルバーピックふくやま</p>	<p>(1) ささえあいサミット</p> <p>(2) ブロック別会議、研修会</p>	<p>(1) 市教委との懇話会</p> <p>(2) 市内一斉あいさつ運動</p> <p>(3) PTA会員研修</p> <p>(4) 小・中部会意見交換</p> <p>(5) 宮城県名取市復興協力</p> <p>(6) 新聞づくり講座</p> <p>(7) 親善球技大会</p> <p>(8) 功労者、児童、生徒表彰</p> <p>(9) いじめ防止標語コンテスト表彰</p> <p>(10) 小学生、中学生総合保障制度</p>	<p>(1) 安定的な経営に向けた運営体制の確立</p> <p>ア 理事会・評議員会</p> <p>イ 自主財源確保に向けた取組</p> <p>(2) 地域福祉事業の推進</p> <p>ア 福祉を高める会・福祉会の活動の活性化</p> <p>イ ふれあい・いきいきサロンの普及、定着、活性化</p> <p>ウ 小地域福祉ネットワーク活動</p> <p>(3) ボランティアセンター事業の充実</p> <p>(4) 安心生活見まもりセンターの運営</p> <p>(5) 介護保険等事業の運営</p> <p>(6) 福祉・介護人材確保等総合支援事業の実施</p> <p>(7) 社会貢献活動の推進</p> <p>(8) その他事業の実施等</p>
5.各民主団体の課題・取組	<p>・加入率の低下が課題であり、自治会・町内会への加入促進の取組により組織強化を継続する。向こう三軒両隣が、顔が見える状況にあることが必要である。</p> <p>・地域における防災・減災の取組は今後ますます重要となる。災害時に自助・共助の活動が行えるよう、行政などと協働で行うことが必要である。</p> <p>・回覧・配布物について精査・スリム化し、単位自治会長・班長などへの負担を軽減することが必要である。</p>	<p>学区の委員会が無くなる地域もあり、それをどうやって再構築するかが大きな課題である。全市組織と学区が情報を共有し、自分たちができる公衆衛生活動を考え、地域の衛生意識、環境意識をどのように育てるかが課題である。</p>	<p>・各学区(町)選出の中央委員のあり方を検討したい。</p> <p>・財源は会費と補助金であり、多くの活動は行政の施策と一致している。活動は事務局(市職員)が支えている状況であり、今後の活動のあり方を会員や各委員会委員と検討したい。</p>	<p>会員数の減少と指導者数の減少が課題である。地域の協力を得て、地域ぐるみで子どもを育てる気運を高める中で、保護者の負担を減らし、会員増につなげていくかを考える。</p>	<p>会員数の減少と男女共同参画の更なる推進が課題である。取組目標を明確にし、それに賛同・共感してくれる団体を見つけ、対話し交流するなど活動を広めていく取組が重要だと考えている。受身から能動の姿勢で課題に取り組めるような成長をめざすために、情報収集力や課題の明確化など、一人ひとりが育成されることが重要である。</p>	<p>会員の高齢化が進んでおり、体力低下や疾病、孤独、孤立が多く見られる。健康寿命を延ばすために、できるだけ楽しい集いや話し合いの場を多くもち、人と人の助け合い、支え合う活動をめざし、フレイルの予防に努めたい。</p>	<p>これからの高齢化社会に「福祉」は欠かせない。50～60歳代の方々に、活動に関心を持っていただいて協力体制をとりたい。次の世代にうまくバトンタッチしたい。また支える側、支えられる側が共に対等であること、支える側も活動を通じて、活力が得られることが理想だと思う。</p>	<p>少子化が進んでいくなか地域とのつながりが薄れていく可能性があるため、まずは地域とのつながりを絶やさない努力が必要だと思う。</p> <p>今後は、現状を踏まえた活動に見直し、縮小し、役員だけが大変な思いをするのではなく、責任を分担・軽減して多くの人が関われる団体をめざす。</p>	<p>地域づくりというのは地域課題の解決、地域の暮らしを支えるということであり、まさに「地域福祉」である。</p> <p>地域の課題は他人事ではなく、自分のこととして解決していく。また、そういう仕組みを作っていく。様々なことを包括的に受ける相談支援体制を作る。行政・社会福祉協議会、幅広い団体の協働の中で地域共生社会の実現に取り組み、その中核を社会福祉協議会が担っていく。</p>
6.加盟学区数	80学区(地区・町)	80学区(地区・町)	79学区(町) ※学(地)区明るいまちづくり委員会が残っている学区数15	66学(地)区	11学(地)区	59学(地)区	78学(地)区	小学校73, 中学校35, 義務教育学校1	



身近な地域の見える化で
人と地域が繋がる備後地域を目指して



知られていない・伝わっていない・活かされていない地域資源活用
NPO 法人ひとまちスタジオ3つの活動領域

【中小零細事業者の為の経営支援】
事業戦略の見直しや IT 導入
SDGs×CSV ワークショップ
一次産業の活性化支援

地域つながる企画室

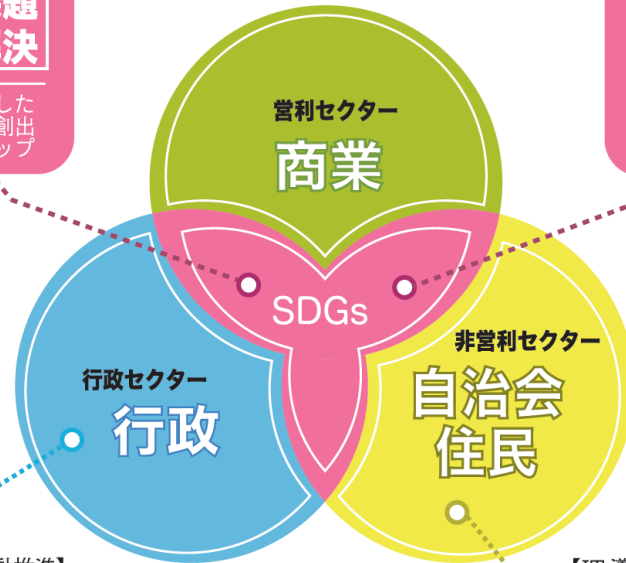
課題抽出 → 課題解決

お寺を活用したプロジェクト創出ワークショップ

地域つながる企画室

Public Relations つながる広報 relations

ON AIR ラジオ マップ SNS



【組織横断しながら地域活動推進】
地域 ICT 導入支援
子育て・教育・福祉・産業振興・離島振興
観光による諸島の魅力作り活動

【IT 導入支援や多世代交流促進】
街づくり活動を見える化支援
参画型の街づくりに向けた IT 支援
社会共創の為のワークショップ開催

酒販業を営む家業で感じたことが自分の活動に

1999年、ビール会社から実家家業に戻る。そこでは幼い頃、地域で活躍していた酒屋さんの淘汰の姿を目の当たりにしました。元々はこの業種は地域の自治活動も担っていたりで地域を支えていた存在。私は便利な世の中で大切なモノが失われているのではという問題意識が生まれ、自分で出来る事で役に立てる仕事をしようと、2010年起業。

「IT を通じて地域の温かいコミュニケーション」

IT 時代となり、様々な情報を一瞬で入手出来る現代ですが、しかしながら身近な暮らしの地域の情報は意外と見つけられないものです。また IT 社会について行けない人々の存在も顕在です。そこで IT に不安を感じる方々の不安解消という人に寄り添う「あったかデジタル活動」をスタートしました。

活かされていないモノに目を向けて、新たなまちづくりへ！

「あったかデジタル活動」は IT に不安を持つ方の技術的・精神的なサポートを行うと共に地域の必要な情報を「地域力」で見える化し、人の往来や経済振興を図ることを目的に進めてまいります。活かされていない地域の資源(人・モノ)を活かしていく事で、本当の「まちづくり=人づくり」に繋がるものと考えております。どうぞ宜しくお願いいたします。
地域おこし協力隊 平岡顕治

PROFILE 平岡 顕治

KENJI HIRAOKA



- 1973年 広島県福山市生まれ(47歳)
- 1989年 福山誠之館高等学校 卒業
- 1996年 広島経済大学卒業～在学中：米国アトランタ短期留学
- 1996年 麒麟麦酒株式会社 横浜支社 マーケティング企画
- 1999年 福山酒販株式会社
- 2002年 株式会社ヒラオカ 常務取締役～2010年 退職
- 2011年 株式会社あすティブ創業
- 2015年 NPO 法人ひとまちスタジオ設立 理事長
- 2018年 合同会社ヒトマチテラス設立 代表者
- 2018年 グロービス経営大学院入学 在学中
- 2020年 笠岡市地域おこし協力隊嘱託 高島
- 2020年 FM 福山ラジオパーソナリティ(地域つながる企画室)
- 2020年 SDGs ビジネススクール入学

所属団体

- ・一般社団法人せとうちドローン推進協議会
- ・一般社団法人教育 DMO
- ・一般社団法人飛鳥学園
- ・株式会社ラックス学院

新たな生活様式に対応できる「福山まちづくり5つの支援メニュー」

どこに居ても安心の
防災マップ導入支援

1

いつでもどこにいてもスマホで
見える地域の安心マップ作り！



【取り組む作業】
既存の「防災マップ」を元にマップを作成

【取り組むメリット】

- ① 修正が発生した時に簡単に変更ができる。
- ② 導入する地域が増えると地域みんなの役に立つ防災マップが出来上がり共有出来る。
- ③ 県外や福山以外の方でも閲覧できる。

お出かけが楽しくなる！！
生活&景観マップ導入支援

2

地域の人しか知らない地域
スポットを共有し楽しもう！



【取り組む作業】
既存の「種々のマップ」を元にマップ作成

【取り組むメリット】

- ① 導入する地域が増えるのが暮らしに役立つみんなのマップが完成！地域情報を誰でも簡単に閲覧可能に。
- ② 地域を見つめる機会が世代を超えたコミュニケーションの機会に繋がる。
- ③ 地域に引っ越してきた方や域外の訪問者に喜ばれる。

地域の言い伝えや歴史を
未来に残そう歴史マップ

3

大切にされてきた地域の
歴史を世代を超えて遺そう



【取り組む作業】
既存の「歴史マップ」を元にマップ作成

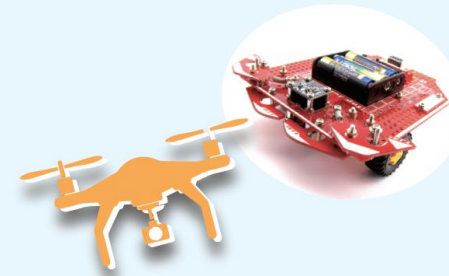
【取り組むメリット】

- ① 福山市内外の方に見てもらえる観光マップに！
- ② 教育の現場でも使える歴史遺産マップに！
- ③ 地域の歴史を大切に作る視点が生まれる！

ドローンやロボット
で多世代交流促進

4

町内会や子ども会への
加入促進に世代交流促進



【取り組む作業】
既存の地域行事に親子向けのイベントを取り入れる！

【取り組むメリット】

- ① 普段は町内会や子ども会に参加したことが無い方が来てくれて、関心をもってもらえる機会に！
- ② 学校では体験出来ない学びの場を通じて自信をつける機会に
- ③ 三世代が楽しめる（子ども→親→祖父母）

子ども～お年寄りまで
地域のやさしいIT環境

5

本を読んでも分からない！スマホ超入門
からオンライン町内会までサポート



【取り組む作業】
超・初心者の為のスマホ超入門講座を開催企画する！

【取り組むメリット】

- ① スマホを使えないという不安がなくなり、地域へ参画しやすくなる。
- ② スマホを通じ様々なおしゃべりの場と課題抽出の機会となる。
- ③ 情報発信することで地域に関心を持ってもらえる。また、町内会等で活用できるコミュニケーションのツールとなり、地域に参画しやすくなる。

現在までの活動

地域や学区

キャリア教育

街づくり

